

(様式 1-3)

福島県(田村市) 帰還・移住等環境整備事業計画 帰還・移住等環境整備事業等個票
令和3年1月時点

※本様式は1-2に記載した事業ごとに記載してください。

| | | | | | |
|--|------------|-----|-----------------------------|------------|----------|
| NO. | 33 | 事業名 | 田村市船引コミュニティプラザ内装木質化事業(単年度型) | 事業番号 | (5)-45-2 |
| 交付団体 | 田村市 | | 事業実施主体(直接/間接) | 田村市(直接) | |
| 総交付対象事業費 | 16,970(千円) | | 全体事業費 | 16,970(千円) | |
| 帰還・移住等環境整備に関する目標 | | | | | |
| <p>田村市では、原子力災害により多くの方が避難を余儀なくされ、人と人とのつながりが希薄化してしまつた。田村市の避難指示区域は、平成26年4月1日に解除され、帰還率は90%前後となっているが、未だ自主避難している方々がいる。避難した方が様々な選択をすることで地域コミュニティの分散や、軋轢が生じ、被災者の孤立化が懸念される。</p> <p>帰還促進及び帰還者が元のコミュニティを形成するためには、人々が集まる場所を整備する必要がある。旧避難地域の方が交通で最も多く利用する船引駅を整備することで、すでに帰還している学生を中心とした若い世代及び今後帰還する方々が快適に過ごし、交流できる場の提供に努める。</p> | | | | | |
| 事業概要 | | | | | |
| ○事業内容 福島県産材を活用して、船引駅を学習スペースやコミュニティスペースとして整備し、さらなる帰還促進を図る。 | | | | | |
| ○事業費 建築費：15,851千円 設計費：1,119千円 | | | | | |
| 【田村市震災等復興ビジョン P13】 (1) 農林業 「林業については、杉材、原木ほだ木、野生きのこ等の豊富な林産品を有する田村市にあっては、山林の徹底的な除染や間伐によりその再生を図る」 | | | | | |
| ※当該事業を復興ビジョン、復興計画、復興プラン等に位置付けている場合は、該当箇所及び概要も記載してください | | | | | |
| 当面の事業概要 | | | | | |
| <令和3年度> デザイン及び実施設計、改修工事 | | | | | |
| 地域の帰還・移住等環境整備との関係 | | | | | |
| <p>船引駅は、旧避難指示区域のどの地域からも利用しやすい位置にある最寄駅で、都路地区の9割の高校生や専門学生など合わせて約60人が毎日通学で利用するほか、商業施設や医療機関などが集積しており、帰還住民が広く利用する交通拠点として欠かせない施設である。</p> <p>しかしながら、船引駅周辺には飲食をしながら話をしたり勉強できる施設が少なく、都路地区と唯一交通で結ばれている駅であるが、電車は1時間に1本、船引駅-都路間のバスは1日に7本と本数が少なく、乗り換え等に間隔が空いてしまうという現状がある。</p> <p>さらに、都路地区から船引駅までは20kmほど距離があるため、都路地区の学生や高齢者は駅を利用する際、バスや車の送迎を要することになり、不便さを助長させてしまう。</p> <p>現状として、船引駅ではWi-Fiや売店を整備しているが、待合スペースは簡易的な机と椅子を設置しているのみで、椅子は冷たくて固いため座り心地が悪く、長く滞在できる環境とは言えない状況である。実際</p> | | | | | |

に、駅を利用している都路地区の学生や保護者からは、現在の船引駅では通行量も多く人目も気になり、迎えを待つ間集中して勉強したりゆっくり過ごすことができないという声が多くあるのが実情である。

また、都路地区の保護者の中には、仕事の都合などで迎えが遅くなる場合に、船引駅ではなくコミュニティスペースなどの整備がなされている他町の三春駅を送迎の拠点としている方もいる。

このように、最寄駅の船引駅が都路地区の学生等の利用者にとって滞留しにくい環境となっており、こうした要因が地域復興の支障となっていることから、送迎や電車の待ち時間を有効に過ごしたり、コミュニティを再生するべく帰還者が集まってコミュニケーションを図る場の整備が必要である。

今回の改修では、駅待合スペースを単なる待合場所とするのではなく、机上に仕切りを設置し個別空間を創出した学習スペースとして整備することで、勉強できる空間やコミュニケーションを図る空間が生まれ、学生が安心して送迎等を待つことができる。

加えて、グループ利用できるテーブル等を設置したコミュニティスペースを整備することで、学生のみならず高齢者やビジネスマンも利用できるため、世代を越えた交流や地域の活性化が期待できる。

また、改修には県産材を全面に使用することで、木材の匂いによるストレス軽減や集中力の増加などの教育的効果の向上が期待できる。

上記のように、都路地区の方が多く利用する駅内を整備することで、駅やその周辺地域に賑わいが生まれ、安心して帰還できる礎となることに寄与する。

【参考】

- ・ 都路地区人口：2,178 人
 - うち都路地区在宅者：1,961 人
- ・ 避難者数：217 人
 - うち市内への避難者数：72 名
- ・ 都路地区住民の船引駅利用数
 - 高校生：52 名/日
 - 専門・大学生：5 名/日
 - デマンドタクシー：39 名/年
 - 0.1 名/日
- その他：3 名

- ・ 地域材の利用促進に関する県の目標数値（単位面積当たりの地域材使用量）
0.02 m³/m²
- ・ 当事業費の単位面積当たりの地域材使用量
0.02 m³/m²

関連する事業の概要

【田村市屋内遊び場整備事業】

幼児～小学生児童までが利用できる田村市屋内遊び場を整備することで、避難している子育て世帯の帰還促進や帰還世帯が住み続ける環境を目指すとともに、帰還した子どもの体力向上・肥満児童減少を図る定住緊急支援事業。

当施設は、船引駅から1kmの位置に令和3年完成予定であり、子どもと保護者が駅を利用することが想定される。船引駅を田村市産材等の木の温もりを感じるスペースとして整備することで、屋内遊び場を利用する家族同士でのコミュニティ形成や飲食などをしながら交通機関を待つことができる空間を創出することができ、一体的な環境整備が図れる。

※効果促進事業等である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業

事業番号

| | |
|-----------|--|
| 事業名 | |
| 交付団体 | |
| 基幹事業との関連性 | |
| | |